経営比較分析表（令和5年度決算）

岡山県　津山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	78.41	99.40	3,575	

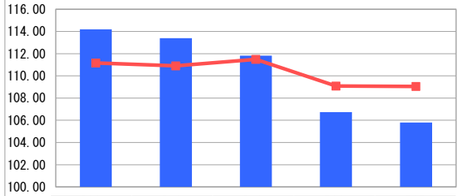
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
96,314	506.33	190.22
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
94,942	205.67	461.62

グラフ凡例
- ■ 当該団体値（当該値）
- ー 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

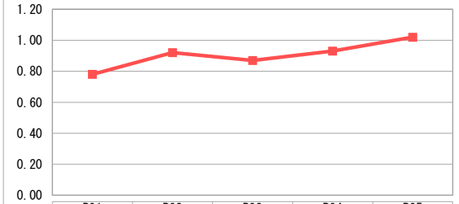
【108.24】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	114.19	113.39	111.82	106.74	105.80
平均値	111.17	110.91	111.49	109.09	109.05

②累積欠損金比率(%)

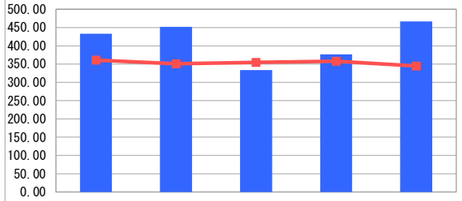
【1.50】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.78	0.92	0.87	0.93	1.02

③流動比率(%)

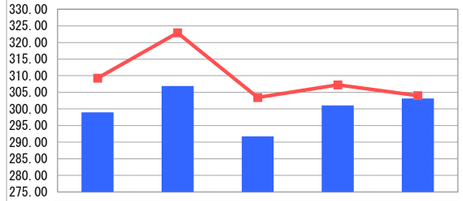
【243.36】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	432.96	451.86	333.66	376.84	466.93
平均値	360.86	350.79	354.57	357.74	344.88

④企業債残高対給水収益比率(%)

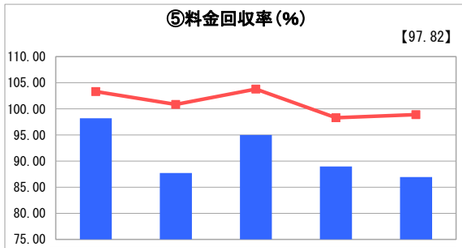
【265.93】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	298.99	306.89	291.74	301.06	303.17
平均値	309.28	322.92	303.46	307.28	304.02

⑤料金回収率(%)

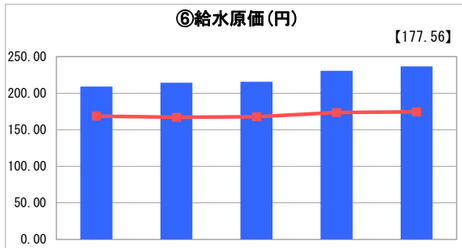
【97.82】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	98.21	87.72	95.01	88.97	86.94
平均値	103.32	100.85	103.79	98.30	98.89

⑥給水原価(円)

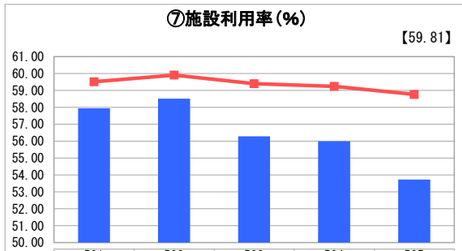
【177.56】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	209.06	214.25	215.67	230.75	236.65
平均値	168.56	167.10	167.86	173.68	174.52

⑦施設利用率(%)

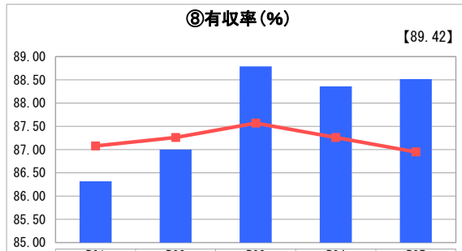
【59.81】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	57.95	58.52	56.29	55.99	53.73
平均値	59.51	59.91	59.40	59.24	58.77

⑧有収率(%)

【89.42】

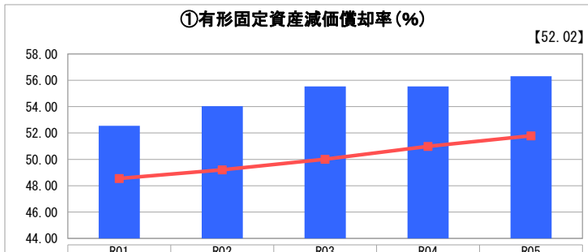


	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	86.32	87.00	88.79	88.36	88.52
平均値	87.08	87.26	87.57	87.26	86.95

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

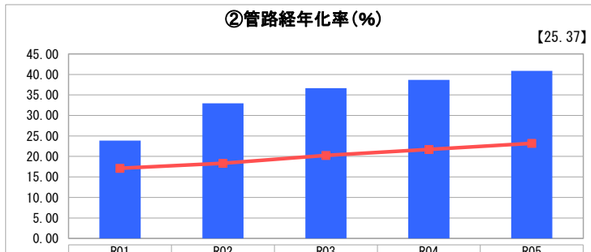
【52.02】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	52.54	54.03	55.53	55.53	56.30
平均値	48.55	49.20	50.01	50.99	51.79

②管路経年化率(%)

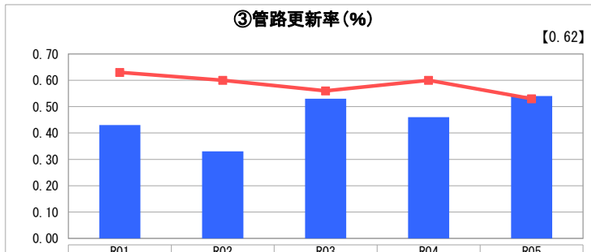
【25.37】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	23.84	32.95	36.63	38.68	40.86
平均値	17.11	18.33	20.27	21.69	23.19

③管路更新率(%)

【0.62】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.43	0.33	0.53	0.46	0.54
平均値	0.63	0.60	0.56	0.60	0.53

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、引き続き１００%を上回っているが、料金収入の減少、営業費用（委託料、資産減耗費）の増加等により経常収支は悪化している。
②累積欠損比率は、引き続き０%であり、健全である。
③本年度は昨年度に比べ流動負債が減少したため、流動比率は上昇し、類似団体平均値を上回った。
④企業債残高対給水収益比率は、令和２年度は、料金減免により上昇したが、概ね３００%程度で推移している。
⑤料金回収率は、類似団体と比べ低い値となっており、１００%を下回っている。令和５年度は、前年度比で若干減少しているが、有収水量減少による部分が大きい。
⑥給水原価は、地勢的な問題もあり、類似団体と比較しても高い傾向がある。令和５年度は前年度・前々年度比で有収水量の減少分が響き、原価は緩やかに上昇している。
⑦施設利用率は、給水人口の減少などに伴う水需要の減少により、低下傾向にあり、類似団体平均を下回っている。有収水量減少の要因として、前年度比で家庭用、事業用ともに減少となっている。また件数減少比よりも、使用量減少比率が大きくなっている。施設の統廃合、縮小を検討していく必要がある。
⑧有収率については、類似団体と比較し低い値が続いていたが、鉛給水管更新等漏水対策などにより近年改善して、一定水準を超えて推移している。本年度は、前年度寒波により落ち込んだ有収水量が回復したため、若干改善した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、類似団体と同様に、上昇傾向にある。
②管路経年化率は、類似団体に比べ高い値で推移しており、対策が急がれる状況は変わっていない。
③老朽化の進む管路について、順次更新を進めている。工事によって管路延長が異なるため、年度毎の更新率に差異が生じている。今年度は、老朽管の更新延長が伸びたことにより、更新率が若干上昇している。

全体総括

現時点では、経常収支比率が１００%を上回り、収益性は保たれているが、今後人口減少に伴う水需要の減少が見込まれ、経営状況は厳しさを増すものと考えている。
　一方で、有形固定資産減価償却比率、管路経年化比率ともに類似団体より高く、上昇傾向にあり、施設、管路の老朽化が進み、更新が遅れている。水道ビジョンに基づき、管路等更新事業の着実な推進を進めていく必要がある。